

ふぞくの風



よき伝統～保護者の素敵な「門礼」の姿から考える～

校長 橋元 忠史

附属小に昨年度戻ってきて、素晴らしいなあと思ったことの一つに門礼がある。それも保護者の門礼である。PTAはもちろん、子どもの忘れ物を届けたり、購買部に用事があったりして来校された時。誰も周りにいないのに立ち止まり、深々と一礼している様子が遠くから目に入ると、何とも言えない幸せな気持ちになる。もちろん、「PTAのしおり」には「子どもたちに示す手本として、廊下でのあいさつや会釈、校門での門礼は、しっかり行ってください。」と記載されているから、保護者としては当たり前なことなのかもしれませんが。

ちなみに門礼というのは何に対して行っているのか、皆さんは考えたことがあるだろうか。どうもこれは日本人のDNAに組み込まれた在り方に関わるのではないかとも思えてくる。それは「場」への敬意の現れではないかと。人に対して礼を尽くすということは他国にも見られるが、場に対してというのは世界的に見ても稀な気がするのは私だけだろうか。調べてみると「場をわきまえる」といった「場」を重視した日本語も多い。また、万物には霊が宿るというアニミズムや「場を清める」意識や「もったいない」という物を大切に感じる感覚ともどこかつながっているのではと思うのである。

これらは、日本人とはいえ、幼い子どもたちにはなかなか分からない感覚かもしれない。「場なんて空気でしょ。目に見えないのに・・・」と。しかし、自分にとって意味のないこと、役立たないことはしないと切り捨てる風潮がまかり通る中、学校という場に対して真摯な姿で門礼をできることは少なくともそれが子どもであっても日本人として憧れの念をもつ。「所作や行動といった目に見えるものの形を整えることで、心を整えることができる」というが、意外とよき伝統というのは、意味があるか意味がないかではなく、美しいか美しくないかといった心の奥底から沸き立つ思いが基盤となって受け継がれていくのかもしれない。

本年度、附属小を「学びと育ちのステージ」と謳った。ステージとはまさしく「場」という意味で使っている。附属小というステージで繰り広げられる「学び」も「育ち」も子どもたちの人生にとってかけがえのないものになればと願う。また、彼らを取り巻く我々大人、一人一人の人生というステージについてもお互いに思いを馳せ、敬意をもって接したいものである。



昔の附属小の門礼



今の附属小の門礼

【11月の主な行事】

- | | |
|---------------------|--------------------------|
| 1日(金) 学校参観週間(～7日) | 14日(木) 6年地層見学 |
| マナーアップ期間(～8日) | 15日(金) 秋の一日遠足(1～4年) |
| 6日(水) 参加観察実習⑤ | 5年天降川見学 |
| 9日(土) PTAバザー(制服譲渡会) | 17日(日) 新1年入学児童選考保護者説明会 |
| 11日(月) 冬服完全更衣 | 21日(木) 5年自然教室(～22日) |
| 校内読書旬間(～22日) | 29日(金) 新1年入学児童選考願書受付及び面談 |

● 心機一転！実り多き後期へ

8日(火)から後期が始まりました。運動会やさわやかランニング記録会、音楽発表会などの行事が予定されている後期。始業式では、2名の代表児童が次のような後期の決意を述べました。

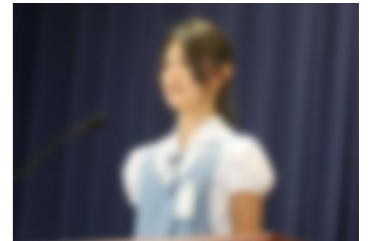
目標を達成しようと一人一人ができることをがんばり、声を掛け合いながらみんなで成長していくことが大切だと思います。(中略)

後期も学年目標「心つないで みんなで一步 スマイルあふれる2年生」を目指し、みんなで協力しながら成長し、附属小学校をスマイルでいっぱいにしましょう。
【2年男児】



複式学級の良さを活かしながら、残りの小学校生活を笑顔の思い出であふれるように過ごしていきたいと考えています。(中略)

複式のみんが楽しく過ごしていける環境をつくるために、性別や学年を超えたつながりを大切にしながら行動していきたいです。その第1歩として、運動会では複式全員が一丸となってがんばれるように、姿で見せながら声掛けを全力で頑張っていきたいです。
【6年女児】



2名の決意には「笑顔(スマイル)」という共通点があります。みんなが笑顔で過ごすために、声を掛け合い、協力していくことの大切さを伝える内容で、全校児童が頷きながら聞いている姿が印象的でした。次の学年へのステップとなる後期、笑顔があふれる附属小となるように職員一同、関わっていきたく考えます。

● 子どもたちの主体性の発揮！一人一人が輝いた第74回運動会

27日(日)に開催された今年度の運動会。「つなげよう！伝統のバトン みんなで協力 一人一人が輝く運動会」のスローガンの下、運動会実行委員会が中心となって運動会への士気を高めたり、当日の運営に参画したりする姿がありました。プログラムには記載されていなかった実習生と教職員のリレーをサプライズ企画するなど、これまで引き継いできた伝統と新たな企画が融合するといった子どもたちの主体性が発揮された運動会となりました。



【主体性を発揮した運動会実行委員】

競技や種目においては、仲間と協力しながら粘り強く自分の役割を果たしたり、転んでしまっても最後まで全力で走り、バトンをつないだりするといった目標に向かって挑戦する姿が見られました。また、応援合戦においては、応援団長を中心に熱のこもった全力の応援が繰り広げられ、運動会を盛り上げてくれました。さらに、係児童の機敏な動作や各学年の集団行動は、練習の成果が発揮され、繊細かつ大胆さを感じさせてくれる姿でした。



【約60年の伝統を誇る全校マスゲーム「のぞみの子」】

運動会で見せた子どもたちの姿は、まさに、スローガンに込められた思いを体現した姿であったと考えます。運動会を通して、みんなで協力し合い、励まし合いながら粘り強く練習に取り組み、実感した充実感や達成感、今後の学習場面での問題解決や学校生活をよりよくするための活動を継続して行おうとする際に生きて働いてくると考えます。